

バスケットボール競技におけるインサイドプレーが勝敗に及ぼす影響

コーチング科学研究領域

5009A085-6 望月麻希子

研究指導教員：倉石平 准教授

I. 諸言

バスケットボールは、リングにボールを入れることで得点をしていくスポーツである。限られた試合時間の中で、より多くの得点をあげた方が勝利となるため、試合中により正確で確率の高いシュートを放つことが求められる。インサイド（ポストエリア）は、ゴールにより近い位置で高確率のシュートを放つことができるという点から多くの著名なコーチたちによって重要視されてきた。またオフェンスリバウンドを獲得しやすい、相手のファウルを誘う、ディフェンスを引き付けるなど、他にも多くの利点がある。そこで本研究では、インサイドで行われるプレー、またインサイドを起点として行われるプレーが実際の試合においてどのような成果を残しており、また勝敗に影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的とした。

またインサイドプレーを詳細に分類し、攻撃パターンとそれぞれの頻度・成功率を調査することで、身長や体格、競技レベルでも世界と大きな差がある日本バスケットボールの競技力向上に役立つ情報の収集を目指した。

II. 方法

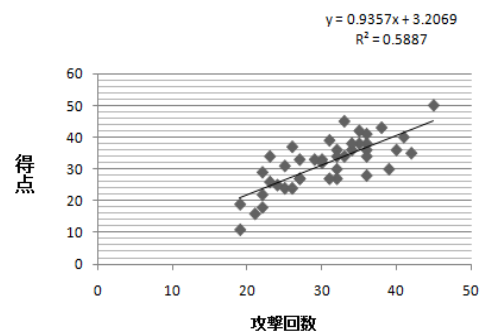
研究の対象は、JBL2009-2010 レギュラーシーズンに優勝したチーム I の全 42 試合とした。試合映像は JBL 公式の DVD データを使用し、PC 分析ソフト DART FISH Team Pro によって分類・編集作業を行った。

本研究ではインサイドプレーをポスト、ポ

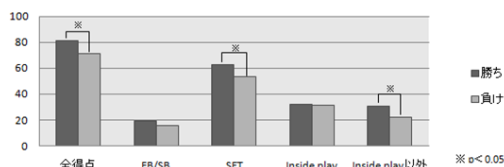
スト・ポスト、ポスト・アウトサイド、オフェンスリバウンドの 4 つに分類し、攻撃回数・得点・シュート成功率・攻撃効率などを算出した。また各インサイドプレーを詳細に分類し、攻撃パターンとその頻度・成功率を算出した。データ分析方法として、平均値の差の検定には対応のない t 検定を用いた。

III. 結果・考察

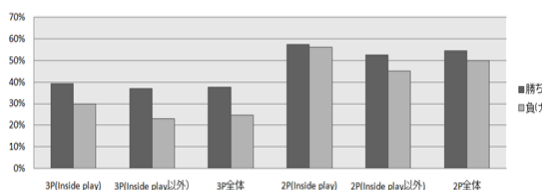
インサイドプレーは、割合として全攻撃回数のうち 34%、また全得点のうち 41% を占めるチームの得点源となるプレーであった。攻撃効率・シュート成功率に関しても、インサイドプレーとインサイドプレー以外を比較するとインサイドプレーの方が数値は高くなった。これは、インサイドプレーがゴールにより近い位置でシュートを放っていること、またポストエリアにディフェンスを引きつけ、ワイド・オープンの状態をつくりだしてシュートを放たせているためだと考えられる。以上のことから、インサイドプレーはシュート成功率が高く効率よく得点することができる、重要なプレーであると言える。



インサイドプレーと勝敗との関係を見ると、攻撃回数・平均得点ともインサイドプレーの項目においては試合の勝敗による差は見られず、インサイドプレーが直接勝敗に影響を及ぼしているとは言い難い結果となった。



これは、オフェンスが有利であると言われるバスケットボールにおいて、体格を活かし、ゴールに近い位置でプレーすることを主とするポストプレーは得点を防ぐことが困難であるため、またポストプレーを2人以上のディフェンスで防ごうとすると、今度はワイド・オープンとなった他のオフェンスの選手へと展開されてしまうためであると考えられる。したがって、インサイドプレーによる得点はいずれの試合においても一定以上あり、勝敗に影響を及ぼさなかったものと考えられる。試合に影響を及ぼす要因としては、勝敗によって大きな差がみられた、セットの段階におけるインサイドプレー以外のプレーのシュート成功率が挙げられる。特にスリーポイントシュートの成功率は15%近くもの差があり、勝敗に大きく影響を与える要因の一つになっているのではないかと考えられる。



インサイドプレーを4つに分類したとき、最も頻度が高かったのはポストで、その攻撃回数は全体の57%、得点は全体の49%を占めた。また各プレーを詳細に分類して攻撃パターンを調べたところ、各プレーに傾向や特徴があり、インサイドプレーの基本を実行している、利点を活かしている攻撃パターンが多くみられた。

また、インサイドプレーを行った選手を調べたところ、外国籍選手・日本人選手の間には大きな差がみられ、両者間には身長や体の幅の他にも差異が存在しているのではないかと示唆された。

IV. 結論

バスケットボールにおいて重要視されてきたインサイドにおけるプレーあるいはインサイドを起点としたプレーは、試合において攻撃回数・得点の割合ともに大きな部分を占めていた。また攻撃効率・シュート成功率も高く、効率のよい重要なプレーであると言える。しかし、試合の勝敗によって攻撃回数・得点に有意な差は認められず、ディフェンスが防ぐことが困難であるインサイドプレーは、いずれの試合においても一定以上の得点をあげることのできるプレーであり、勝敗に影響を及ぼしているとは言い難い結果となった。

また、4つに分類したインサイドプレー各プレーの攻撃パターンには傾向があり、特徴を捉えることができた。

今後、日本が世界で闘っていくためには、試合において重要であると言えるインサイドプレーについて、身長や体格の違いをはじめとする世界との差異を考慮したうえで、指導や対策を講じていくことが必要であると言える。